

持続可能な社会

日光青年会議所主催の日光サスティナビリティフォーラムで、持続可能な社会を目指して行動する若者たちの話を聞いた。

彼らは自然（環境・エコ）、人間（健康・社会）、経済（お金・仕事）の三つが循環してこそ持続可能な社会が成り立つことを、強調する。

そして持続可能とは、自然に返すことが出来る以上に採らないこと。地下資源は返せないし温暖化を生む。天然ガスも地下資源。プラスチックなどの石油製品も環境には良くない。

つまり木や草などの地上の素材を原料として出来たものを使うことがエコなのだという。

スウェーデンでは5キロの生ゴミを1リットルの燃料に変えている。街のあちこちに生ゴミポストがあり、太陽光のエネルギーで圧縮して回収を待っている。

また、傷ついて廃棄される果物を全国から集めてジュースを作って売っている。日ごとに産地も果物も違うためジュースの色や味が毎日違うけれどみんな気にしないで買っている。

Tシャツも

ヨーロッパでは賃金の安い劣悪な労働環境や児童労働で作られた500円のTシャツと、最低賃金を守る雇用環境で作られた高いTシャツがあると、高い方が売れるのだそう。

その売り方がまたすごい。それぞれの商品の前に、働いている工場労働者の映像を映し出している。例えばエアコンの無い暑い工場で安い賃金で働かされている疲れた表情の人々。そこで作られたTシャツなどは安い。一方では、冷暖房完備の工場で生き生きと働いている人々の映像が。それを見ると皆、高い方を買うという。

つまりこの商品は働く人の賃金に見合っただけの価格で売られているのか＝作る人と使う人の対価がちゃんとフェアに交換されているか？という視点だ。フェアトレード商品の真髄だと思った。

世界が2016年から2030年までに達成すべき17の環境や開発に関する国際目標で、国連で全会一致で採択された運動にSDGs（エスディーゼズ）というのがある。

「だれひとり取り残さない」
(No one will be left behind.)

SDGsとは Sustainable Development Goals の略称で、日本では「持続可能な開発目標」と訳されている。地球環境や気候変動に配慮し、持続可能な社会を営むための、世界各国の政府や自治体、NPO団体に限らず、民間企業や個人などにも共通した目標だ。

明日に架ける橋



その目標とは「貧困や飢餓の根絶」「質の高い教育の実現」「女性の社会進出の促進」「再生可能エネルギーの利用」「経済成長と、生産的で働きがいのある雇用の確保」「強靱（きょうじん）なインフラ構築と持続可能な産業化・技術革新の促進」「不平等の是正」「気候変動への対策」「海洋資源の保全」「陸域生態系、森林資源の保全」などの17項目。このSDGsについては、最近、栃木県議会でも公明党の議員諸氏が2回続けて取り上げている。



日本も2016年にSDGs推進本部を設置し、民間企業や各種団体、消費者と連携した実施方針を打ち出した。2016年の世界149か国のSDGs達成ランキングは、スウェーデン、デンマーク、ノルウェーなどの北欧諸国が上位を占め、日本は18位、アメリカは25位、中国は76位に。

持続可能な社会は、経済抜きでは語れないし、自然環境抜きでも人間の健康抜きでも語れない。全てが有効に回るからこそ循環型社会なのだ、改めて思った。

生き逃げはしたくない、先人たちへの感謝も込めて自然も資源も健康もお金も未来に生きる全ての人たちのために大切にしていかに使い残さなければ！

頑張ろう日本、頑張ろう栃木、頑張ろう日光！！

生活は政治で決まります！

4月7日(日)は栃木県議会議員選挙です。

※県政について、みなさんのご意見をお寄せ下さい。

立憲民主党
The Constitutional Democratic Party of Japan

【Eメール】 hiraki-chisako@nifty.com

平木ちさこオフィシャルサイト

<http://hirakichisako.com>

平木ちさこ

検索

